

12 (金)

真実な言葉を

マタイによる福音書五章 33〜42節

あなたがたは、「然り、然り」「否、否」と言いなさい。それ以上のことは、悪から生じるのだ。(37)

当時のユダヤ人たちは、誓いをしてでもそれを果たさないことがあったようです。律法学者たちは自分たちに都合のよい抜け道を考え出し、神の御名を指して誓ったことは果たさなければならぬが、神の御名以外のものを指して誓った場合は果たさなくても赦される、と主張しました。これに対して主イエスは、そもそも誓いを立てなければ保証されないような私たちの不真実な言葉を問題にされませんでした。「はい」を「はい」とそのまま受け止められないようなところでは、健全な信頼関係は築けないからです。誓いを破ったり、不真実な言葉を口にすることは交わりを破壊します。お互いの不真実な言葉によって、どれほど多くの家庭や職場でその交わりが破壊されていることでしょうか。今日一日、神の真実に土台した確かな言葉をもって、周りの方々に接したいものです。